

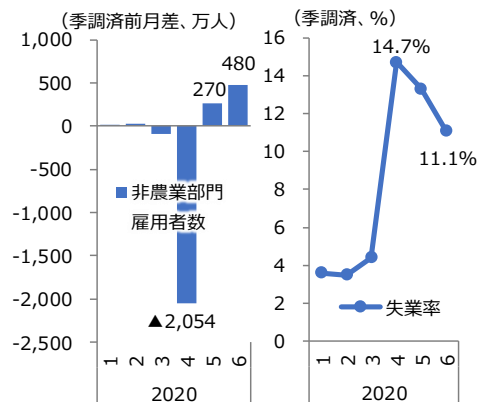
米国

雇用統計 (2020年6月)

雇用は緩やかに持ち直しも、感染再拡大で先行き不透明

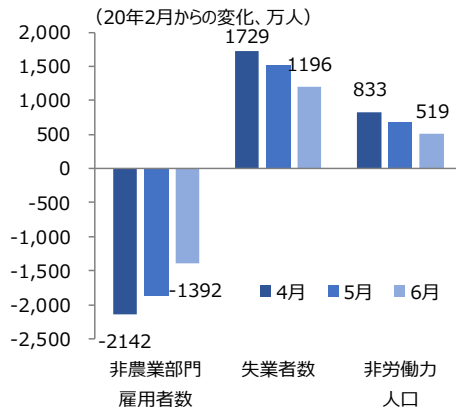
政策・経済研究センター
森重彰浩
03-6858-2717

1 非農業部門雇用者数と失業率



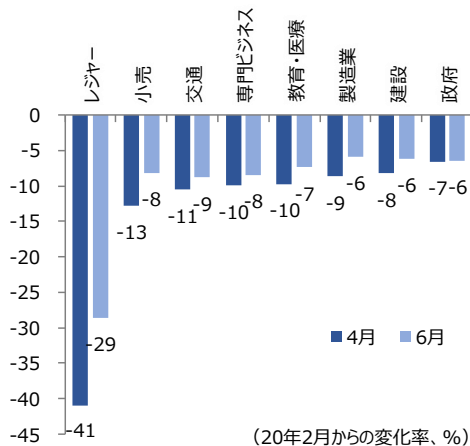
出所：米国労働省

2 雇用者、失業者、非労働力人口

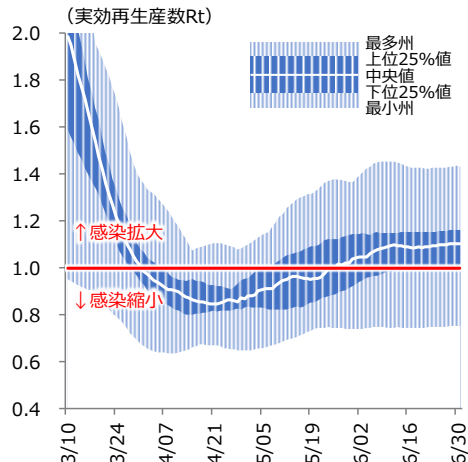


出所：米国労働省

3 産業別の雇用者数変化率

注：雇用者数の多い主要業種のみピックアップ。
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

4 実効再生産数の州別分布



出所：rt.liveより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 2020年6月の非農業部門雇用者数は、前月差+480万人の増加となった。新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、2千万人を超える歴史的な減少となった4月から持ち直しの動きがみられる（図表1）。経済活動の段階的再開に伴って、一時的に解雇されていた就業者の一部が仕事に戻る動きがみられる。
- 失業率（失業者数／労働力人口）は、11.1%と前月（13.3%）から2.2%ポイント改善した（図表1）。ただし、状況は依然として深刻だ。コロナの経済影響が本格化する前の2月時点と比較すると、失業者数は1,196万人増加しているほか、非労働力人口も519万人増加している（図表2）。就業意欲のある非労働力人口などを含む広義の失業率（U6）は、4月の22.8%からやや低下したとはいえ18.0%と高水準にある。
- 産業別の雇用者数をコロナ前（2月）と比較すると（図表3）、レジャーが4月の▲41%から6月には▲29%まで減少幅が縮小したものの、依然として突出して悪い状況だ。レジャーの内訳をみると、宿泊業の雇用の回復は鈍いが、飲食店・バーの雇用が徐々に戻りつつある。その他の業種も4月に比べれば減少幅は縮小しているが、コロナ前と比較すれば▲6-9%程度低い水準にある。

基調判断と今後の流れ

- 米国の雇用・所得環境は、最悪期は脱しつつあるが、先行き予断は許さない状況だ。
- 経済活動の再開に伴い、雇用者数は徐々に持ち直しつつあるが、同時に感染も再拡大している。米国の新型コロナウイルスの新規感染者数は、5月は2万人程度で推移していたが、6月半ば以降に再拡大し、7月初には1日あたり4万人程度に達している。防疫施策を講じた上での実際の感染力を示す実効再生産数も上昇しており、6月には感染拡大／縮小の境目となる1.0を再び上回っている（図表4）。
- こうした状況を受けて一部の州では、飲食店などの営業規制を再強化する動きもみられる。現時点では雇用者減のうち8割近くは一時的な解雇であるが、感染抑止のための営業規制が長期化すれば、失業も長期化する。雇用者数が7月以降も持ち直しの動きを継続できるか、先行きは不透明な状況だ。